

会議議事録

会議名	長岡市交通バリアフリー基本構想策定委員会第5回委員会
開催日時	平成14年11月19日14時～15時40分
開催場所	長岡市役所4階大会議室
出席者名	<p>■委員長 齋藤 純</p> <p>■委員 佐藤 愛子 佐藤 佳代 田井 健一 太刀川 武 藤井 良治 増田 くみ 源川 久恵 能登 優一 中川 守 千野 正夫 田村 幸雄 春日 俊英 木本 二郎</p> <p>■オブザーバー 北陸信越運輸局 高橋課長補佐</p> <p>■委員随行者 長岡警察署交通課 遠藤係長 長岡土木事務所 稲岡主査</p> <p>■事務局 都市整備部 小野塚部長 防災課 木村主査、小林主任 福祉総務課 井上主事 道路管理課 若木課長、稲川係長、小見主任 都市政策課 野口課長、篠崎係長、高頭主任 八千代エンジニアリング(株) 長谷川副部長、別府</p>
欠席者名	小林 浩也
議題	交通バリアフリー基本構想(案)について
審議結果の概要	基本構想案について了承された。
主な意見内容	
<p>冬期バリアフリーについて記述しておく必要があると思います。冬の間は健常者も思うに任せない通行状況になります。先人の知恵といいますでしょうか、部分的に雁木やアーケードがありますが、駅周辺地区でも十分でないと考えています。</p> <p>冬期バリアフリーについても今回の構想の中に将来的な課題として触れてはいかがでしょうか。「おわりに」に一言触れておく方法もあります。</p>	
<p>豪雪の時はバスの乗降だけでも大変です。 まず一点は、バスに乗り降りする場所の除雪が必要かと思います。バス事業者が</p>	

することもかもしれませんが町内と行政とが3者一体となって取り組む必要があると思います。モラルの問題もあると思います。

二点目は横断歩道のところに水がたまることです。水はけのいい整備をしていただきたい。消雪のための水がはね上がり、ズボンが濡れることがあります。

三点目は特に視覚障害であることで困ることは雪が降ると点字ブロックが使えなくなることです。

四点目は音響信号機が雪に音が吸収され聞こえづらくなります。

バス停の除雪ですが、待合所にスコップを置いて、乗客の協力を頂いて「ひとかき運動」というかたちで実施しています。

道路の消雪水を実験的に歩道にまわしてバス停の雪を消す、また、ロードヒーティングを入れて雪を消すというような実験に取り組んでいます。屋根を掛けるなどもありますが、現在試行錯誤しながら取り組んでおります。

横断歩道のところで水たまりができる件に関しては、大手口周辺は横断歩道に消雪パイプを入れまして、シャーベット状の雪を消してということ年次計画で取り組んでおり、好評いただいています。これは裾が濡れるようなはじく方式ではなく、わき水のように水が出る方式を採用しており、コートが濡れたりするようなことがないように配慮しています。駅周辺に順次設置していく予定です。

道路の構造に関してご指摘がありましたが、歩道の両側から水を流して車道の真ん中に排水溝をつくって水を流すこともやっています。歩道も車道も排水も消雪パイプも全部作り直すことになるため、お金がかかることもあり、全てに普及するのは無理な状況で、場所を選んで部分的に実施していきたいと考えております。

駅周辺だけ整備されても、そこまで行くことができないのでは意味がないのです。街まで歩いて行けるような仕組みが必要になるのだと思います。

冬期バリアフリーも念頭に入れるという意味から「おわりに」に入れさせていただきます。

基本構想案について了承ということでよろしいでしょうか。

異議なし

フォローアップ委員会をつくるという方向でお願いしたいと思います。

歩道上の自転車のマナーが最近目に付きます。

高校生だけでなく、高齢者の方からも前にいる方が邪魔だということで、ベルをならして通る方がいますので、全体的なマナーの問題ですので気になっております

とにかく歩道がなくなるということが一番問題です。小学校、高校、福祉会などの施設に来ていただくだけでも歩道がない、歩道は誰が除雪するのかという問題もあります。それぞれの責任というのがあるのではと思っています。

防犯の立場からして、元気のいい人から日を決めてあるいは状況をみながらボランティアによって歩道確保を行っていきたいと思いますが、ブルの通った後の圧雪された雪を歩道に巻き上げられると素人ではどうしようもありません。

歩道に融雪をして、かなりのお金をかけて確保している町内もあるが、融雪施設のない町内が多いので、毎年除雪の関係でお話しています。阪之上小学校の脇の稲葉線の歩道もいつになったら雪が解けて通られるようになるのか、3月まで待たなければならぬのかと思っています。

結局身の安全を確保するためには自分でやらなければならないのか。こういう機会に何らか訴えながら道路課の人と話し合いながら、各町内の老人会や青年部、PTAの人を動員しなければならないのかなと思っています。毎年同じことで悩み続けているわけです。

ちなみに阪之上小学校では、交差点毎にPTAの方が除雪をしたり子供たちを誘導したりしています。雪国の宿命ですから、仕方がないというあきらめを持っているわけです。

アーケード、雁木のあるところとないところでは大きな差があります。どういう風にどこにお願いすればいいのかと私たち町内の悩みであります。そういうことも交通安全、児童の登下校の問題として考えていただきたいと思います。

長岡駅の改善についてかねがね思っていることですが、長岡市の玄関でもありますし、安全に安心して行けるように、4、5番線にあるエスカレーターと同じものを2、3番線にも是非設置して欲しい、できれば上下両方向を付けていただきたいと思っています。是非お願いしたい。

構想はいいものができていますので、市民がどれだけ関心をもっていけるかが問題になると思います。市政だよりで基本構想素案が出されていましたが、一般市民には、例えば公共広告機構で「指一本でできるボランティアがあります」といったCMのようにできればいいのではと思っています。

若い人たちは活字ではわかりにくいと思いますので、思いつきですが、CMなどを使って視覚的に伝えることも必要なのではないのでしょうか。

基本構想に関しては、特定事業者の方に非常にご努力をお願いすることになる一方で心苦しい立場ですが、特定事業者の方に整備していただいても、路上にもものを出したりするマナーの点、ソフト面が委員会の場で強調されていることに感謝します。また特定事業者の方にも感謝申し上げます。

冬場の運動不足から骨折する方がおられます。

冬場は雪がバリアになって外に出ることがおっくうになり、筋力が落ちてとっさの動きができないことがあります。交通バリアフリー基本構想だけでは補えない部分もありますので、市民が自分で運動する、足腰を鍛えるということも大事だと思いました。

組織や部署間のバリアを取り除いて、意見の交換ができればいいなと思いました。フォローアップの話もありましたが、KYT(危険予知訓練)の話も出ており、そういう勉強の機会があればありがたいなと思いました。

2、3番線へのエスカレーター設置の件ですが、現在エレベーターを設置する方向で協議しています。エレベーターかエスカレーターのどちらかを設置したいと考えていま

すが、エレベーターにすると人手をかけずに移動できますが、車いす対応のエスカレーターでは駅員の介助が必要になりますので、基本的には自力で移動できるエレベーターが将来的にも良いと考えています。

エスカレーターについては、乗降客数が2万人未満と少ないですので、どちらか一方しか付けられないのが現状です。ご推察をお願いいたします。

エレベーターの設置については、国の補助制度でJRが三分の一、市町村が三分の一、国が三分の一というものが示されています。JR東日本では2005年までに全体駅の5000人以上、高低差5m以上、60%以上に設置を目標としていますが、国の予算も限りがありますので、協議がまとまり次第、早く国土交通省に要求していくこととなりますので委員のみなさまにもご理解いただきたいと思ひます。

長岡市の予算の事情もあるかと思ひますが、当社としては2005年までには設置したいと考えていますので、そちらの方の協議を進めさせていただきたいと思ひます。

事後調査に関連しては我が社にも専門家がおり、誘導ブロックが途中で止まっているなどの指摘がありました。実際にはお使いになる方の意見を直接聞く機会があまりないものですから、一緒に確認することをお願いしたいと思ひます。

冬期のバス停の除雪は、一般道を利用して営業させて頂いていることから、バス事業者がやるのが当然ですが、手がまわらないというのが現状です。極力やっていかなければならないと思ひます。

市役所のポスターで「差別は人間の心の壁かもしれません」という言葉が印象に残っています。

音響式の信号機につきましては、タイマーと音量調整機能が付いており、昼間は大きく、夜間は小さくします。

先ほど要望がありました、要望に沿ってできるだけバリアフリーに対応するように努力していきたいと思ひます。

国、県、市と検討しながら安全で快適な交通環境を創るために努力していきたいと思ひます。

事業の進捗、進行についてはできるだけ協力していきたいと思ひます。基本構想の推進についてという中で、フォローアップ委員会というところがありますので、そこで事業計画の進行と次年度の要求と関係機関と協議できる場にもしていただきたいと思ひますが、それには夏では要望の時期が終わるので遅いのではと思ひます。

今回、基本構想をつくったわけですが、道路管理者として着実にできればと思ひます。

市の満足度アンケートで最も多いのは「歩道の除雪を何とかして欲しい」ということでした。歩道ではボランティアで除雪していることもあり、非常にありがたいと思ひます。

現在歩道の確保については、長岡市では機械除雪を行っていますが、歩道の幅員、起伏による限度があります。

現状では、一番安い方法は消雪パイプですが、調査をしてみると無駄遣いも多いということから、節約し、必要量だけにすることが大事だなと思ひております。

地下水を使っているのですが、地盤沈下の安全揚水量の10~20倍が汲まれている現状があります。無駄遣いをなくすという市民合意を得て、余剰分を歩道等にまわせればと思います。

長岡市の基本構想は、全国でも四十番台の構想になります。

県内では亀田町に続き2番目です。本年度中には新潟市で作成の予定になっています。今後、策定に着手するというのが、越路町、柏崎市、糸魚川市、新発田市となっています。これからますます増えていくのだと思います。

これからが大事だと思っています。方針に沿って各機関、交通事業者の方々が事業計画を作成して、計画に従って実施していくことになります。

財政的な面では、国の予算についても、整備補助金が財務省からの締め付けがありますが、予算を確保しようがんばっているのが現状です。

国、県、市、交通事業者等が協力しながら、少しでもバリアフリー化を推進していくことが大事だと思っています。

そういう意味からも、フォローアップをどうしていくかということも重要だと思います。

こういう事業なり福祉が推進していくためには、行政ももちろんのこと住民参加がどうあるべきか、ということが大きな議論になると思います。責任を押しつけあっても福祉は成就しないと思います。

委員のみなさん方の意見はすばらしく、拝聴させていただきました。

さらに盛り上げていただいて、フォローアップ委員会等に繋いでいただきたいと思えます。

以前から断片的なバリアフリー化には取り組んでおり、50年代には交差点の歩道の段差解消、点字ブロック、60年代に入りまして国際障害者年等の契機にいろんな整備に取り組んできました。

今回交通バリアフリー法の施行に伴い、このような体系的に全体を見直して、ユニバーサルデザインを基本として検討したのは初めての取組となりました。

この基本構想については、長岡市が公表することによって実施の段階に移ることになります。特定事業が計画されていますが、平成15年度の予算から具体的に問題に取り組んでいくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

今後フォローアップ委員会で推進管理をやっていくこととなります。委員会ではハードの整備の問題だけでなくソフトの面、マナーの面からもご議論いただきました。

いろんな角度からご議論を頂きながら、交通バリアフリーがより良い方向に推進していくよう、努力していきたいと考えております。

実現については、財政負担の問題などのもありますでしょうが、いろいろな角度からご議論いただき、進めていきたいと思っています。